
平成24年度予算第二特別委員会質問要旨

○ 局別審査

平成24年3月8日

質問者（質問順）

- 1 木下 義裕 委員（みんな）
- 2 荒木 由美子 委員（共産党）
- 3 草間 剛 委員（自民党）
- 4 斉藤 達也 委員（自民党）
- 5 坂本 勝司 委員（民主党）
- 6 安西 英俊 委員（公明党）

交 通 局

局 別 審 査

1 木 下 義 裕 委 員 (み ん な)

1 平成24年度予算案の概要と経営課題について

- (1) バス事業と地下鉄事業それぞれの経常利益額はいくらか、また、前年度予算と比較してどうか。
- (2) バスと地下鉄の両事業を経営していくうえでの課題は何か。

2 バス・地下鉄事業の連携について

- (1) バスと地下鉄の両事業を持っている交通局の「強み」とは何か。
- (2) 「強み」を活かしていくためにどのような取組を行うのか。

3 バス事業の人件費について

- (1) 平成24年度予算における人件費が経常支出全体に占める割合はどのくらいか、また、前年度と比較してどうか。
- (2) 給与の引下げ率が最大6%となったことによる経営への影響はどうか。
- (3) 給与引下げ後も民間バス事業者との大きな差があることに対しての今後の方向性も含めた考え方について、伺いたい。

4 地下鉄事業の企業債について

- (1) 企業債残高の平成23年度末の見込額はいくらか、また、平成24年度予算における見込額はいくらか。
 - (2) 残高が大幅に減少している要因は何か。
 - (3) 今後の企業債残高の削減に向けてどのような取組を行うのか、また、削減する額はいくらか。
- (要望) 地下鉄事業を安定的に経営していくには、借金である企業債と毎年支払っていく支払利息を減らしていく取組を続けていくことが重要だと考えます。企業債については引き続き計画的に償還を進めていくことを強く要望します。

5 自主自立経営の持続に向けた取組について

(1) 横濱ベイサイドラインについて

ア 平成20年度から平成22年度までの乗車率はどのくらいか、また、損益分岐点はどこか。

イ 損益分岐点に達していない原因は何か。

ウ 運行体制をどのような視点で見直すのか。

(2) お客様からの外部評価の導入について

ア これまでに接遇の向上に向けて、どのような取組を行ったのか。

イ 外部評価の具体的な仕組みについて、伺いたい。

ウ 接遇の水準はどの程度まで引き上げていく考えなのか。

(3) 市営バス・地下鉄の利用促進について

ア 市営バスと地下鉄の利用を促進し、増収につなげるためにどのような取組を行うのか。

イ 市営バスの「駅までワンコイン」の社会実験により、どのような効果を期待し、どのように検証するのか。

ウ 地下鉄での「ワンコイン」実施の検討について、伺いたい。

(4) グリーンラインの集客力向上について

ア 平成24年度予算における経常赤字額はいくらか、また、黒字化の見込みはいつごろか。

イ 増収のために地域と連携してどのような取組を行ったのか。

ウ 沿線会議を通じた大学との連携について、どのような取組を行ったのか。

エ 増収に向け、平成24年度はどのような取組を行うのか。

2 荒木 由美子 委員（共産党）

1 バス事業の中期経営計画について

- (1) 公営交通としての役割をどのように考えているのか。
- (2) 公営交通の役割に基づいて、新年度予算では具体的に、どのような事業に取り組むのか。
- (3) 市民が必要とする足を確保するためには、増収が見込める路線だけではなく、赤字の路線もあると考えるが、赤字路線を維持していくためにその赤字をどのように補っていくのか。
- (4) 増収対策や支出抑制の具体的な内容について、伺いたい。
- (5) バス事業の営業収入に対する人件費比率を平成23年度の60%から58%に抑制する方法について、伺いたい。
- (6) 同じ市の職員でありながら、業務が違うということで一般職の職員と差が生じることについて、見解を伺いたい。
- (7) 市民の足を守るために必死に働いている職員に対し、黒字を生み出すために我慢を強いることになると考えるが、見解を伺いたい。
- (8) 大阪市長のバス運転手給与の引き下げに関する発言について、所感を伺いたい。
- (9) 給与の引き下げにより、生産年齢といわれる職員層の収入が減ると、結婚もできないし、子どもも産めないという悪循環になると考えるが、見解を伺いたい。
- (10) 人件費を削減しなくても、十分に採算の取れる経営状況と考えるが、見解を伺いたい。
- (11) 本市の施策をPRするポスターの貼り出しについて、広告料の支払を求めたと聞いているが、減額や減免などの措置はとれないのか。

2 南区役所移転に伴う区民の足の確保について

- (1) 移転にともなうアクセスについて、どのように考えているのか。

1 改善型公営企業としての取組について

- (1) これまでの経営改革をどう評価しているのか。
- (2) 平成24年度の予算編成を終えた率直な所感を伺いたい。
- (3) 将来に向かって、どのように市営交通を経営していくのか。

2 大阪市交通局と横浜市交通局に関する比較について

- (1) バス事業の事業規模や財務状況はどう違うのか。
 - (2) バス運転手の給与の比較はどうか。
 - (3) バス運転手の人数の比較はどうか。
 - (4) 改善型公営企業を継続していく決意を伺いたい。
- (要望) 横浜市交通局は既に地道に経営改善に取り組んでおり、大阪市とは状況が違うことをIR（インベスター・リレーションズ）等を通じて、積極的に情報開示をすることを要望します。

3 市営交通中期経営計画について

- (1) 乗車人員の目標はどのようになっているのか、また、バス事業と地下鉄事業それぞれの利益目標はどのようになっているのか。
- (2) 計画期間中の収支見通しにおける各年度の経常利益はいくらか。
- (3) 目標達成の困難度について、伺いたい。
- (4) 横濱ベイサイドラインについて
 - ア 平成22年度の収支はどうだったのか、また、平成23年度の収支見通しはどうか。
 - イ 平成23年度は集客のためにどのような取組を行ったのか。
 - ウ 市内定期観光バスを市営で運行する意義について、伺いたい。
 - エ 平成24年度は運行体制をどのように見直すのか。
- (5) 目標達成に向けた決意を伺いたい。

4 改善型公営企業としての人材育成について

- (1) 過去5年間の交通局と市長部局の人事交流についてどのくらい実績があるのか、また、新規採用職員の配属状況はどうか。
- (2) 現業職員の採用再開の理由は何か、また、採用規模はどのくらいか。
- (3) 新たに採用する現業職員の人材育成の方針について、伺いたい。
- (4) 職員のドレスコードの規定はどのようになっているのか、また、しっかりと監督しているのか。
- (5) これまでに行われた「職員参加型の取組」の内容はどのようなものか。
- (6) 「はまりんフェスタ」開催の意義は何か、また、得られた成果はどのようなものか。

5 地下鉄事業の中長期収支について

- (1) 負担金の繰り延べによる地下鉄事業の予算への影響について、伺いたい。
- (2) 過剰債務にかかる繰入金金の趣旨について、伺いたい。
- (3) 今回の繰り延べを踏まえた平成26年度以降の過剰債務処理はどのような予定か。
- (4) 過剰債務処理の繰入金金が減少する平成26年度以降は経常赤字にならないのか。
- (5) 累積欠損金の解消時期はいつごろか。

6 グリーンライン輸送力増強について

- (1) グリーンラインの朝ラッシュ混雑時に局長が乗車したと聞いたが、所感を伺いたい。
- (2) グリーンラインの朝ラッシュ混雑時に副市長も乗車したと聞いたが、所感を伺いたい。
- (3) 2編成増加で具体的に輸送力がどの程度増える見込みなのか。
- (4) 増強に向けた今後のスケジュールはどのようになっているのか。
- (5) 編成が増えるまでの2年間の対策はどのようなものを考えているのか。
- (6) グリーンラインの沿線人口はどのくらい増加すると想定しているのか。

(7) 今後、更に輸送力を増強する考えはあるのか。

7 地下鉄高架下の有効活用について

(1) これまでの活用実績はどうか。

(2) 多くの高架下土地が未利用になっている主な理由は何か。

(3) 当該高架下開発の基本的な考え方について、伺いたい。

(4) 基本構想の策定にあたっては、地元の意見をしっかりと聞いた上で取り入れていくことが重要だと思うが、見解を伺いたい。

4 齊藤達也委員（自民党）

1 グリーンラインの混雑状況について

- (1) 現在のグリーンライン混雑状況について、建設中の費用削減の議論を踏まえた副市長の所感を伺いたい。

2 横浜市歌の普及について

- (1) 横浜市歌を駅構内でどのように放送したのか。
- (2) 駅構内での横浜市歌の放送を中止した理由は何か。
- (3) 今後、駅構内での横浜市歌の放送を再開する予定はないのか。

3 バス・地下鉄車内のIT環境の整備について

- (1) バス車内でのWi-Fiによる公衆無線LANサービスの実証実験の規模はどうか、また、目的について、伺いたい。
- (2) 実証実験の状況はどのようなものだったのか、また、お客様からの反応はどのようなものだったのか。
- (3) 今回の結果を踏まえた今後の展開をどのように考えているのか。
- (4) 市営地下鉄の現在のIT環境の整備はどのような状況か、また、今後の整備状況はどのようになっているのか。
- (5) 他都市の地下鉄と比較した整備のスピードはどうか。

4 金環日食に関わる取組について

- (1) グリーンラインや市営バスでは、金環日食に関連してどのような取組を行うのか。
- (2) 金環日食の機会を市営地下鉄とバスの利用促進にどのようにつなげていくのか。

5 プロスポーツチームとの連携について

- (1) プロスポーツチームとの連携の基本的な考え方について、伺いたい。
- (2) 横浜熱闘倶楽部や各チームとどのような連携実績があるのか、また、平成24年度の進め方について、伺いたい。

6 市営地下鉄3号線の延伸について

- (1) 川崎市総合都市交通計画の動向について、所感を伺いたい。

7 市営交通の経営状況の開示と検証について

- (1) 新たな中期経営計画における経営状況の開示について、どのような取組を行うのか。
 - (2) 平成23年度の経常黒字は達成できる見込みなのか。
 - (3) これからの交通局に対する期待について、副市長の所感を伺いたい。
- (要望) お客様のニーズに応えた利用実態の明確化やニーズの把握につながるICカードの活用、地下鉄の速達性を向上させることに取り組むことを要望します。

1 地方公営企業としての交通局の役割について

(1) 地方公営企業としての役割について

ア 地方公営企業としての「役割」をどのように考えているのか。

イ 平成22年度決算と平成23年度決算見込みのバスと地下鉄の経常収支はどうだったのか、また、平成24年度予算の3か年の推移はどうか。

ウ 公営企業として、今後、黒字が出た場合には市民にどのような形で還元していくのか。

(2) ふれあいバスの現状と今後の方向性について

ア 生活支援バスサービスの趣旨について、伺いたい。

イ 現在2路線を運行しているが、その利用状況はどうか。

ウ 現在運行しているふれあいバスの利用者からの要望はどのようなものがあるのか、また、それに対してどのように対応しているのか。

エ 地域を支援するバスの新設について、市民からどのような要望があるのか、また、それに対して今後どのような取組を行うのか。

(3) バス車両について

ア 公営企業として、バス車両導入に際しての基本的な考え方について、伺いたい。

イ 現在、福祉対策車両や環境対策車両を何両保有しているのか。

ウ 今後、先駆的な事業として、新たにどのような車両を導入していく計画なのか。

(要望) 電気バスについては、新技術の開発を支援するため、公営企業として、実験的に導入することも重要な役割であり、早期導入を要望します。

(4) 地下鉄最優先席と全席優先について

- ア 市営地下鉄が全席優先席を導入した経緯について、伺いたい。
- イ お客様に全席優先席について協力を得るためにどのような取組を行ってきたのか。
- ウ 見直しに際して、全席優先席に対するお客様の評価をどのように把握したのか、また、その結果はどうだったのか。
- エ 最優先席を導入する目的は何か。
- オ 今後、最優先席、全席優先席の定着に向けて、どのような取組を行うのか。

2 増収対策について

(1) 企画乗車券について

- ア 平成23年度にどのような企画乗車券を発売したのか、また、販売実績はどうだったのか。
- イ 乗車券を企画する際にどのような視点で検討しているのか。
- ウ 今後は、どのような企画乗車券の販売を検討するのか。

(2) 「あかいくつ」について

- ア 観光スポット周遊バス「あかいくつ」の平成22年度の実績はどうだったのか、また、平成23年度の実績はどうだったのか。
- イ 「あかいくつ」について、現在どのような課題があるのか。
- ウ 「あかいくつ」を1両増車することで、どのような効果が見込めるのか。
- エ 「あかいくつ」が今後果たす役割はどのようなものがあるのか。

(3) 地下鉄の急行運転について

- ア 急行運転について、これまでどのような検討をしてきたのか。
- イ これまでの検討における課題は何か。
- ウ 今後、市営地下鉄の急行運転実施に向けて、どのように進めていくのか。

3 安全対策・災害対策について

(1) バスの事故防止について

ア 現在の事故防止について、どのような取組を行っているのか、また、今後の課題は何か。

イ 平成23年度にドライブレコーダーを全車両に導入し、どのような効果があったのか。

ウ ドライブレコーダーのカメラ増設でどのような効果が見込まれるのか。

(2) 地下鉄の震災時の安全対策について

ア 東日本大震災を踏まえた今後の震災対策について、どのような取組を行うのか。

イ 津波警報が出された場合、どのように対応するのか。

ウ 2月17日に実施した津波対策訓練はどのような内容なのか。

エ 訓練の結果、どのようなことが分かり、今後どのような取組を行うのか。

(要望) 市営地下鉄はブルーライン、グリーンライン合わせて1日約60万人のお客様に利用されています。早期に対応マニュアルを整備し、有事の際に市民のみなさまをしっかりと守る対策をしていただくよう要望します。

1 新たな中期経営計画について

- (1) 新たな中期経営計画の策定にあたっての率直な思いを伺いたい。
- (2) バス事業の中長期収支について、昨年の予算時に懸念されていた将来の経営健全化団体への転落の可能性はどうなったのか。
- (3) 今後も継続的に正規職員を採用していく予定なのか。
- (4) 中期経営計画に定める収入が確保できなくなった場合、どのように対応するのか。
- (5) 増収対策に対する基本的な考え方について、伺いたい。

2 バス事業の増収策について

- (1) 「駅までワンコイン」の社会実験について
 - ア 社会実験として実施する理由は何か、また、実施路線や区間は、どのような考え方で選定するのか。
 - イ 期間や運賃、收受方法など具体的な実施内容はどのようなものか。
 - ウ 現時点で考えられる課題は何か。
 - エ どの程度の増収効果を期待しているのか、また、効果があった場合は本格実施を検討するのか。
- (2) 新規路線について
 - ア 平成22年度の新規路線は何路線か、また、その収支はどうだったのか。
 - イ 平成23年度に実施した新規路線数はいくつか、また、その利用状況はどのようなになっているのか。
 - ウ 平成24年度に新規路線を考えているのか。
 - エ 新規路線を計画するに当たっての課題は何か。

3 タブレット型バス接近表示機について

- (1) 現在のバス接近表示機の設置台数はどのくらいか、また、1台あたりのコストはいくらか。
- (2) タブレット型バス接近表示機の特徴は何か。
- (3) タブレット型バス接近表示機の設置台数の見込みはどのくらいか。
- (4) バスの接近情報以外の情報を発信する考えはないのか。

4 バス停留所の待合環境について

- (1) 広告付き上屋は何基設置されているのか。
- (2) 広告付き上屋の設置はどのような基準で行っているのか。
- (3) 広告付き上屋の今後の整備方針について、伺いたい。
- (4) ベンチの設置数はどのくらいか。
- (5) ベンチは今後、どこに、どの程度整備する予定なのか。

5 地下鉄事業の災害対策、防災対策について

- (1) 停電時でも列車に電力を供給し、次駅まで走行させるための大規模蓄電池とはどのようなものか。
 - (2) 大規模蓄電池を導入するための費用はいくらか。
 - (3) 高額な設置費用がかかるが、災害時以外にはどのような役割があるのか、また、設置費用の補助制度などはあるのか。
 - (4) 大規模蓄電池はどこに設置するのか。
 - (5) 避難口を沢渡換気所や花咲換気所に設置するとあるが、どこにあるのか、また、人が安全に避難することができるのか。
 - (6) 津波による浸水が予想される地域にこの様な避難口を何か所設ける計画があるのか。
 - (7) 避難口の設置による効果はどうか。
- (要望) 避難経路であるトンネル内はもとより、避難口の扉付近に最終的に避難していただく施設への経路案内を表示するなど、きめ細かな対応をするよう要望します。

6 上大岡駅トイレのリニューアルについて

- (1) 上大岡駅のバスターミナル改札口にあるトイレリニューアル工事の内容はどのようなものか。
 - (2) 授乳室や女性が化粧を行うスペースなど、より使いやすいトイレとすべきと考えるが、実現するための課題と対応について、伺いたい。
- (要望) 子育て支援に力を入れている本市全体の施策を考えても、乳幼児をお連れの方のことを考えることも大事だと思いますので、検討を要望します。